

日本語上級レベル学習者の接続表現の使用状況に関する調査 — 中国語母語話者のストーリーテリングテストを中心に —

王 蕊

アブストラクト：

学習者が目標言語で自分の意見を述べたり、何かについて説明したりすることは、コミュニケーションの場面において、極めて重要なスキルである。本稿は、日本語学習者の発話における接続表現の使用に注目し、上級レベル学習者が談話を展開していく過程でどのように接続表現を使用するのか、また、その使用傾向を裏付ける原因とは何かを明らかにしようとするものである。

これまでの日本語学習者の接続表現に関する研究は、目標言語の実態分析に限られているが、本稿は、学習者の目標言語、学習者の母語、そして日本語母語話者の日本語について同じストーリーテリングテストを行い、それぞれの接続表現の使用実態を対照的に分析する。

分析結果から言えば、学習者の接続表現の使用実態に、①文頭に「ソ」系指示詞の多用、②文中に「～が、～(逆接)」の使用回避、という2つの傾向が見られた。その原因を具体的に考察し、日中接続表現における構造上の相違が不自然な文が構成される重要な原因と分析する。そして、はやい学習段階から、学習者に母語と目標言語との構造上の違いを認識させ、より自然な表現に気付かせるような指導方法を提言する。

キーワード：接続表現、ストーリーテリング、使用実態、使用傾向、対照分析

1. はじめに

日本語の接続表現は多様で、類似した意味や形の表現が数多くある。その上、感情や意味の違いなども含まれるため、学習者にとってそれぞれの意味や使い方を十分理解した上で使いこなすことは極めて困難であろう。

ところで、接続表現の研究は、これまでのところ目標言語の実態分析に限られており、調査対象が中級学習者にとどまっている。学習者の言語使用の実態を考察するためには、目標言語を調査・分析するだけでは不十分である。不自然さが生じる原因を探るためには、学習者の母語と日本語の違いを対照的に分析することが必要である。

本研究の目的は、上級学習者にとって母語の接続表現の構造が習得過程にどのような影響を与えているか、また、それを克服するために教員が授業活動においてどのように指導すればいいのかを明らかにすることである。そのため、本稿では、日本に留学している上級レベルの学習者を対象に、その目標言語と母語の言語使用実態を対照的に分析する。

また対照分析をしやすくするために、本研究の対象を中国語母語話者に限定する。日本語母語話者に日本語、中国語母語話者に日本語及び中国語のストーリーテリング実験を行い、その接続表現の使用傾向を比較・分析する。さらに、データから見えた問題点と具体例を取り上げ、日中接続表現の相違と照らし合せながらその原因を考察する。

2. 本稿における日中接続表現の定義

接続表現とは「個別に切り離して表現することのできる二つ以上の語・句（文節・連文節）・文・段落（文章）、または、それ相当の形式によって表現された叙述内容相互間を、同一語句の反復、指示語・接続詞・副詞・接続助詞・活用語の中止法の連用形などの使用によって関係づけ、結び合わせる事。また、その表現」（『国語学大辞典』、1980）のことである。本調査では、このような定義を踏まえ、かつ佐久間（2002）の規定に従いつつ、接続詞、接続助詞のみならず、動詞の活用形や非接続表現の接続詞的使用までを分析対象として扱う。

中国語の接続表現について、相原（1982）は、「複句を構成する分句の間には、一定の意味関係が存在する。この関係は関連詞を使って表されるか、関連詞なしで語序によって表される。関連詞とは接続詞の類、「如果（もしも）」、「因為（…なので）」や副詞「都（すべて）」、「却（だが）」など、さらに、「另一方面」のようなフレーズも含む、連接機能を持つ語句の総称である。」と記述している。本稿ではこのような連接機能を持つ指示代詞や副詞などの使用を分析対象として扱う。

3. 調査概要

3.1 調査対象

①日本語学習者グループ（中国語母語話者）：

日本の大学院に在籍している中国語母語話者6名を調査対象にする。日本語能力試験の結果や日本語の学習年数については【表1】に挙げられている。

②日本語母語話者グループ：

日本語学習者とはほぼ同年代の日本人6名（男性3名、女性3名）を対象とする。大学院生3名、社会人3名。

【表1】日本語学習者グループ

	性別	年齢層	職業	日本語学習年数	日本滞在年数	日本語能力試験
1	男	20代	大学院生・M1	4年	3年	1級合格
2	女	20代	大学院生・M1	4年	2.5年	1級合格
3	女	20代	大学院生・M1	6年	2年	1級合格
4	女	20代	大学院生・M1	8年	4年	1級合格
5	女	20代	大学院生・M1	5年	3年	1級合格
6	女	30代	大学院生・M2	7年	6年	1級合格

3.2 調査内容及び方法

調査方法：ストーリーテリングを行い、ICレコーダーで録音する。その音声資料を文字化し、学習者と日本語話者の接続表現の使用傾向を分析する。

調査内容：日本語学習者については、18枚の連続した絵を見せ、意味がわかるかどうか考える時間を与える。「絵を見ていない人に物語を説明するように話してください」と指示する。ストーリーテリングの時間制限はなく、学習者と一対一でストーリーテリングテストを行い、すべてを録音して音声データとして採集する。同じ方法で母語、日本語の順で2回のストーリーテリングテストを行う。日本語話者については同じ絵を見せ、学習者と同じことを指示し、日本語のみのストーリーテリングテストを行う。

絵の出所：『おおかみと7匹のこやぎ』ポプラ社、平田ファンタジー（2004）

4. 結果分析

学習者に中国語と日本語で、それぞれ2回のストーリーテリングを行ったため、談話資料を「ストーリーテリングの日本語文」と「ストーリーテリングの中国語文」に分ける。また、対照しやすくするため、日本語話者の談話資料を「JJ」、中国語話者の日本語の談話資料を「CJ」、そして中国語話者の中国語の談話資料を「CC」と表記する（以下「JJ文」、「CJ文」、「CC文」とする）。

4. 1 文中における接続表現の使用実態分析

文字化したストーリーテリングの資料から見れば、文中の接続表現の形式と種類について、日本語話者のJJ文が17種（【表2】）、日本語学習者のCJ文が13種（【表3】）となる。しかし、数値は近いものの、その中身が同じであるとは言えない。ここで、まず、JJ文（【表2】）とCJ文（【表3】）を対照分析することにする。さらに、その使用傾向をまとめ、CC文（【表4】）と比較しながら両者の違いの原因を考察する。

【表2】 JJ文に使われた接続表現の種類と数（日本語話者）

JJ文	種類	使用回数						合計	
		JJ1	JJ2	JJ3	JJ4	JJ5	JJ6	使用回数	使用人数
文中の接続表現	①～て	11	8	9	24	15	28	95	6
	②～と（引用）	3	5	10	2		21	41	5
	③～が、～（逆接）	2	2	1	1	1	1	8	6
	④中止形		1	5	1		2	9	4
	⑤～ので		1		1	1	5	8	4
	⑥～から（理由）	1		2	2		6	11	4
	⑦～と（条件）		1				4	5	2
	⑧～たあと		1	3				4	2
	⑨し（並列）						5	5	1
	⑩のに						2	2	1
	⑪～ば（条件）			1				1	1
	⑫～なら			1				1	1
	⑬～ても				1			1	1
	⑭～ところに				1			1	1
	⑮～ために						1	1	1
	⑯～たら						1	1	1
1人あたり使用回数		17	19	32	33	17	84		
1人あたり使用種類		3	7	8	8	3	11		

【表3】 CJ文に使われた接続表現の種類と数 (日本語学習者)

CJ文	種類	使用回数						合計	
		CJ1	CJ2	CJ3	CJ4	CJ5	CJ6	使用回数	使用人数
文中の接続表現	①～て	5	19	39	15	11	23	112	6
	②～と (引用)		5	17	1	6	5	34	5
	③～たら			6	1			7	2
	④～ながら	1	1	1	2			5	4
	⑤～てから		1	1	1			3	3
	⑥中止形				1	3		4	2
	⑦～ので			2		1		3	2
	⑧～から (理由)			4				4	1
	⑨～たあと	3						3	1
	⑩～と (条件)	3			1			4	2
	⑪～とき (に)	1						1	1
	⑫～が、～ (逆接)			1				1	1
	⑬～ために		1					1	1
1人あたり使用回数		13	27	71	22	21	28		
1人あたり使用種類		5	5	8	7	4	2		

文中の接続表現の使用種類に関して、日本語話者 (JJ文) で出現率の高い詞類 (「使用人数」が3人以上となっている詞類を指す) は、「～て」、「～と (引用)」、「～が」、「中止形」、「ので」、「から (理由)」の6種となっている。一方、学習者 (CJ文) で出現率の高い詞類は、「～て」、「～と (引用)」、「ながら」、「～てから」の4種となっている。「～て」と「～と (引用)」の使用は、日本語話者と学習者の両方で、他を圧倒して多いが、学習者が日本語話者より「～て」を多く使う傾向が見られた。「て」形の誤用が不自然な文になる重要な原因だと考えられるが、それについての研究論文¹がすでに出されているため、本稿では分析の対象としないことにする。

学習者と日本語話者の文中の接続表現の使用種類に関しては、それぞれ13種と16種になっており、大きな異なりがないことが分かる。しかし、JJ文で使われ、CJ文で見られなかった表現として「～ば (条件)」、「～なら」、「～ても」、「～ところに」、「し (並列)」、「のに」の計6種がある。そして、CJ文で使われ、JJ文では見られなかった表現は、「～ながら」、「～とき (に)」、「～てから」の3種であり、いずれもCJ文で高い使用回数を占める表現であった。ここで、注目しなければならないのは、学習者が日本語話者より、トキにかかわる文中の接続表現、「～とき (に)」、「～てから」、「～たあと」を多く使用することである。これは、中国語の「連詞 (接続詞)」の種類が日本語より少なく、接続形式の付加が任意 (水野、1985) であるため、中国語話者が複文を構成する場合、トキを表す表現を使用することによって、前文と後文を関係づける傾向をもつためであると考えられる。

【表4】CC文に使われた接続表現の種類と数（中国語話者）

CC文	種類 (日本語訳)	使用回数						合計	
		CC1	CC2	CC3	CC4	CC5	CC6	使用回数	使用人数
文中の 接続 表現	①就 (～すると、すぐ)	8	5	9		8	3	33	5
	②又 (また)	1	3	1	1	1	3	10	6
	③之后、以后 (～あと)	2	2		5			9	3
	④并且、而且 (また、そして)			1	1			3	2
	⑤由于 (～ので)		1				1	2	2
	⑥一…就… (～すると、～)			2				2	1
	⑦可是 (が、ても)			1				1	1
	⑧一邊…一邊 (～ながら、～)			1				1	1
1人あたり使用回数		11	11	15	7	9	7		
1人あたり使用種類		3	4	6	3	2	3		

さらに、学習者のCJ文においても1つの特徴が見られた。それは文中における逆接の接続詞類の使用に関するものである。日本語話者のJJ文では、「～が、～（逆接）」に関して、6人、のべ8回の使用回数が見られる。また、それ以外に逆接の詞類に関しては「ても」、「のに」の使用も見られた。これに対し、学習者のCJ文では、ただ1人が逆接表現の「～が、～」を1回使用しただけである。このような結果から、学習者は上級レベルになっていても、まだ日本語話者のように文中の逆接表現を自由に使用することができていないことがわかる。これは学習者が文中の接続表現を何らかの理由で回避したためであろう。しかし、今回使用した絵本の内容をみれば、逆接が必要な箇所はいくつか存在している。そのため、学習者はどのように、どこで逆接の表現を使用したのかについて、比較分析をすることが必要となってきた。まず考えられるのは、接続詞の出現位置の比較分析である。日本語では逆接の複文に使われる接続詞は、従属節の尾部に使用されるのが普通であるのに対し、中国語の「転折復句（逆接複文）」に使われる連詞（接続助詞）は、正句（主節）の頭部に使用されるのが普通である。そのため、中国語話者は文頭に逆接表現を使いがちなのではないかと考えられる。次の節で分析する文頭における接続表現の実態に、その答えになるものが現れる可能性を念頭に置いておきたい。

4. 2 文頭における接続表現の使用実態分析

前節では、上級レベルの学習者の文中における接続表現の使用実態とその傾向を分析した。本節では、文頭に使われた接続表現の実態を分析・考察する。今回のストーリーテリングの文字資料に見られた文頭の接続表現について、日本語話者のJJ文が19種（【表5】）、日本語学習者のCJ文も同じく19種（【表6】）となっている。しかし、文頭における接続表現の使用回数をみれば、JJ文は71回、CJ文は103回となり、差が生じている。また、文頭に使われた接続詞類の種類についても、日本語話者と学

習者の差が見られた。この節では、JJ文（【表5】）とCJ文（【表6】）を比較し、どのような差が見られたのかを分析する。さらにCC文の文字資料（【表7】）と比較し、その差の生じる原因を考察する。

【表5】 文頭に使われた接続表現の種類と数（日本語話者）

JJ文	種類	使用回数						合計	
		JJ1	JJ2	JJ3	JJ4	JJ5	JJ6	使用回数	使用人数
文 頭 の 接 続 表 現	①そして	5	1	2			13	21	4
	②すると	1	4			2	3	10	4
	③で			1	3	3	1	8	4
	④でも	3		1				4	2
	⑤それから		1				3	4	2
	⑥その後		1	2				3	2
	⑦そのとき			2			1	3	2
	⑧しかし			3				3	1
	⑨それで				3			3	1
	⑩しばらくして	1					1	2	2
	⑪じゃ						2	2	1
	⑫また			1				1	1
	⑬まず			1				1	1
	⑭さらに				1			1	1
	⑮そこに				1			1	1
	⑯あと					1		1	1
	⑰あるとき						1	1	1
	⑱そのごろ						1	1	1
	⑲なので						1	1	1
1人あたり使用回数		10	7	13	8	6	27		
1人あたり使用種類		4	4	8	4	3	10		

日本語上級レベル学習者の接続表現の使用状況に関する調査
 — 中国語母語話者のストーリーテリングテストを中心に —

【表6】 文頭に使われた接続表現の種類と数（日本語学習者）

CJ文	種類	使用回数						合計	
		CJ1	CJ2	CJ3	CJ4	CJ5	CJ6	使用回数	使用人数
文 頭 の 接 続 表 現	①そのとき	5	4	4		1	6	20	5
	②で			17			1	18	2
	③でも			6	4	2		12	3
	④それで			1	10			11	2
	⑤そして	1		2		5	1	9	4
	⑥また			1		1	2	4	3
	⑦それから					3	1	4	2
	⑧そしたら					4		4	1
	⑨だから		1	1	1			3	3
	⑩そのあと	1			2			3	2
	⑪しかし			1		2		3	2
	⑫まず				1			1	1
	⑬このとき			1	1			2	2
	⑭最後に	1			1			2	2
	⑮これから	1		1				2	2
	⑯しばらくして					1	1	2	2
	⑰じゃ			1				1	1
	⑱同時に				1			1	1
	⑲ところで					1		1	1
1人あたり使用回数		9	5	36	21	20	12		
1人あたり使用種類		5	2	11	8	9	6		

【表7】 文頭に使われた接続表現の種類と数 (中国語話者)

CC文	種類 (日本語訳)	使用回数						合計	
		CC1	CC2	CC3	CC4	CC5	CC6	使用回数	使用人数
文 頭 の 接 続 表 現	1 然后 (そして、それから)	12	4	29	3	6		54	5
	②这个时候 (そのとき)	2	1	2	5	5	7	22	6
	③(因為) …所以… (だから)	1	1	6	3		1	12	5
	④但是、可是 (しかし、でも)		1	4	3	1		9	4
	⑤过了一会 (しばらくすると)	1	1			1	1	4	4
	⑥从此 (以后) (それから)	1		2			1	4	3
	⑦于是 (それで)			1	2			3	2
	⑧最后 (最後に)	1			1			2	2
	⑨後來 (その後)			2				2	1
1人あたり使用回数		18	8	46	17	13	10		
1人あたり使用種類		6	5	7	6	4	4		

【表5】と【表6】の集計結果からみれば、前節で分析した文中の接続表現と比べ、文頭の接続表現においてより一層学習者と日本語話者との差が大きくなっている。まず、文頭の接続表現の使用回数について、日本語話者 (JJ文) の場合は合計71回 (19種) 見られた。それに対し、学習者 (CJ文) の場合は合計103回 (19種) となっている。学習者は日本語話者より文頭の接続表現を多く使う傾向が明らかである。

また、文頭の接続詞類の使用実態について、日本語話者 (JJ文) において出現率の高い接続詞類は、「そして」(21回)、「すると」(10回)、「で」(8回) であり、並列と帰結の機能の接続詞類が多く使われている。一方、学習者 (CJ文) の場合、「そのとき」(20回)、「でも」(12回)、「そして」(9回) となり、時間、逆接と並列の機能の接続詞類が多く使われている。学習者のCJ文では「で」(18回) と「それで」(11回) の使用回数が高いものの、使用人数がそれぞれ1人に偏っているため、本稿では出現率の高い詞類として分析しないことにする。

「そのとき」と「でも」の使用回数については、日本語話者がそれぞれ3回と4回に止まるのに対し、学習者がこの2種を多用する傾向が示されている。その現象が生じる原因を解明するためには、中国語話者 (CC文) のストーリーテリングの資料と比較することが必要となる。まず、【表7】の統計を参考に、中国語話者による中国語文 (CC文) における中国語の接続表現の使用傾向を見てみよう。

【表7】の集計データにより、中国語話者の談話資料（CC文）における文頭の接続表現は合計112回使用されることが分かる。それはCJ文の使用回数とほぼ同様である。また、それは日本語話者（【表5】）の文頭の接続表現の使用回数を大きく上回っていることが分かる。一方、使用種類については、学習者のCC文では9種類の文頭接続表現しか見られず、CJ文及びJJ文より種類が少ないことが分かった。

ここで興味深い使用傾向が表れた。それは学習者のCC文の文頭に頻繁に出現する接続詞類は、「然后（そして、それから）」、「这个时候（そのとき）」、「所以（だから）」、「但是（だが、しかし）」であり、その機能はそれぞれ「並列」、「時間」、「理由」、「逆接」である。つまり、学習者のCJ文の場合同様、上記の機能をもつ接続表現が文頭で高頻度使用されていることが見てとれる。

上記【表5】、【表6】、【表7】の比較から、文頭の接続表現に関して日本語話者の使用実態と学習者の使用実態が大きく異なっていることは分かった。しかし、学習者の日本語文（CJ文）と中国語文（CC文）における文頭の接続表現の使用実態は機能的にも数値的にも近接している。学習者の母語である中国語の複文の構造では、接続詞類がなくても文を繋ぐことが可能であり、また、中国語の接続詞類は文の頭部に置かれるのが普通であるため、学習者は文頭の接続表現を多用してしまうのではないかと考えられる。特に、「逆接」と「時間」にかかわる接続表現の使用について、学習者と日本語話者の間に差異が見られたため、次の節では、その原因を具体的に検証する。

4. 3 学習者の言語使用傾向に関する考察

4. 3. 1 考察1—「ソ」系指示詞「そのとき」の多用

この考察の目的は、前節で見られた学習者と日本語話者の言語使用の差が学習者の母語である中国語の複文構造に影響されていることを具体的に検証することである。

今回行われたストーリーテリングの実験では、「て」形の使用以外に「逆接」と「時間」にかかわる接続表現に関して、日本語話者と中国語話者の間に差が見られた。その差が文中だけではなく、文頭においても顕著に表れている。この節では「逆接」及び「ソ」系指示詞「そのとき」を中心に考察する。

まず、文頭の接続表現について、中国語話者の日本語の談話資料では「そのとき」が最も多く使用されている。一方で、日本語話者の談話資料では「そして」を多く使っている。その差が生じた原因は、中国語の接続詞の種類が日本語より少なく、接続形式の付加が任意の場合もあるためであると考えられる。特に【表7】で示したように、中国語話者のCC文において、「这个时候（そのとき）」の使用回数が高く、CJ文の20回（使用人数5人）とほぼ同様の22回（使用人数6人）となっている。それは、中国語話者が複文を構成する場合、一度文を切り、文頭に「そのとき」を使うことによって、前文と後文の関係を維持させる言語習慣をもつからである。学習者が「そのとき」を多用する原因は母語にあることが裏付けられていると言えよう。

ここで学習者のストーリーテリング資料に多く使われる「そのとき」の例文を挙げ（下線は「そのとき」の出現箇所である）、学習者のCC文とCJ文を比較しておく。下記の①～⑥は同じ内容についての中国語（CC文）と日本語（CJ文）のストーリーテリング資料である。

- ① 在这个时候呢,树后面躲着大灰狼,它知道羊妈妈出去了,就对这几只小羊垂銜三尺,然后它等羊妈妈走远之后它就过来敲门。(CC1)
- ② その時、おおかみは森の中でこの子ヤギたちは、あの、食べたい様子です。お母さんは出かけ、出かけた後、おおかみがドアをノック、する、しました。(CJ1)
- ③ 这个时候呢,小羊就用挂钟里的啄木鸟用力地向大灰狼啄去,大灰狼被啄疼了就走了。(CC2)
- ④ その時子ヤギは掛け時計のなかのある木の鳥持って力強く、ん、おおかみの眼に突っ込みました。おおかみを撃退しました。(CJ2)
- ⑤ 这时候呢,那只藏起来的小羊跑出来了,她和那个妈妈见了面她们拥抱在一起了。(CC5)
- ⑥ その時、時計にいる子ヤギはママを呼んでママと抱き合いました。(CJ5)

上記の例文に示したように、中国人学習者の中国語文と日本語文における「そのとき」及び「这个时候」の出現位置は全く同じであった。学習者が上級レベルになり、各種の言語使用能力が高くなっているにもかかわらず、このような母語の文構造による影響がまだ顕著に存在していることは注目に値する。文頭の接続表現として学習者が「そのとき」を多用してしまい、談話の組み立てに不自然さが生じたのはこのためであると見てよい。

4. 3. 2 考察2—文中逆接表現「～が、～」の使用回避

日本語話者が文中に逆接表現を多く使用するのに対し、学習者が文頭を中心にそれを使用する実態が今回の調査で分かった。本節では、その原因を具体的に考察する。

まず、分析結果から言えば、学習者が「～が、～」という文中の逆接表現をほとんど使用せず、かわりに「でも」という文頭の接続表現を多用していることが分かった。文頭の逆接表現の使用実態については、【表5】と【表6】で示したように、日本語話者の談話資料では、「でも」のみが使われ、使用回数は4回、使用人数は2人であった。一方、学習者の場合は「でも」と「しかし」が使用されている。「でも」の使用回数は12回で、使用人数は3人である。「しかし」の使用回数は3回で、使用人数は2人となっている。また、学習者の中国語文の統計資料(【表7】)をみれば、学習者が母語を使用する際にも、文中より文頭に逆接の表現を多く使っていることが分かる。また、【表2】と【表3】の統計データが示したように、日本語話者のJJ文では、「～が、～(逆接)」が6人、のべ8回使用されている。それ以外の逆接の詞類に関しては、「ても」、「のに」の使用も見られた。これに対し、学習者のCJ文では、ただ1人が逆接表現の「～が、～」を1回のみ使用している。

このような結果から、逆接の接続表現の使用に関して、日本語話者はそれを文中に多用する傾向があるのに対し、学習者は文頭を中心に多くを使用することが分かった。つまり、学習者は上級レベルになっても、日本語話者のように文中で逆接表現を自然に使用することができていないと考えられる。これは、学習者の母語である中国語の複文の構造、特に、中国語の複文で接続詞類が文頭に置かれる習慣に影響されていると言えよう。その裏づけとして、同じ場面を説明する日本語話者の例文と学習者の例文を比較し、その逆接の接続詞類の出現位置に注目してみる(下線は逆接の出現位置)。

【日本語話者の日本語の文より】

- ⑦ すると、ヤギの子供たちはお客さんが来たと思ってドアを開けようとしたが、ヤギの子供のうちの一匹がオオカミの足がドアの下から出ているのを見て、開けてはだめだと言いました。(JJ2)
- ⑧ 食べられそうになりましたが、そのコヒツジは、うまくオオカミを矢付けて、追い返しました。(JJ4)

【学習者の日本語の文より】

- ⑨ でも、子ヤギさんはオオカミのあしを、黒いあしを見ました、ドアの隙間からオオカミのあしを見ました。(CJ5)
- ⑩ でも、もう一人の子ヤギさんがね、あの、壁に掛けている掛け時計を見付かって、そのなかに隠れていた。(CJ3)

【学習者の中国語の文より】

- ⑪ 可是呢，小羊们很聪明，他们发现呢大门的底下呢露出了两只灰色的大灰狼的脚，他们就说，你不是妈妈你是大灰狼。(CC5)
- ⑫ 可是，幸好有一只小羊他发现了挂在墙上的挂钟。然后他就很快地跑到了那个挂钟里面。(CC3)

上記の例文に示されているように、学習者が文中での「～が、～」の使用を回避し、文頭に接続表現「そのとき」及び「でも」を多用する実態が見て取れる。このような使用傾向は学習者の中国語文における逆接続詞の使用傾向と一致するのである。日本語の逆接の複文に使われる接続詞類は、従属節の尾部に使用されるのが普通であるのに対し、中国語の「転折復句（逆接複文）」に使われる連詞（接続詞）は、正句（主節）の頭部に使用されるのが普通である。具体的に言えば、正句（主節）だけに、「但是（しかし、でも）」、「可是（しかし、でも）」などを用い、転折復句の口調を和らげるのである。そのため、中国語話者は文中ではなく、文頭に逆接表現を使いがちなのではないかと考えられる。以上のことから、学習者に口頭表現または文章表現を指導する際、日本語の接続表現の特徴と学習者の母語の接続表現の特徴の相違を意識させ、より自然な複文の表現に気付かせる指導が必要であると考えられる。

5. まとめ

本研究では、日本語母語話者のストーリーテリング資料をモデルとし、上級レベルの学習者（中国語母語話者）の談話における問題点について調査を行った。学習者が上級レベルになっていてもなお、母語の表現構造に影響されることに関して、いくつかの使用傾向とその原因を明らかにした。

学習者の接続表現の使用は日本語話者と違い、文頭に集中していることが分かった。また、「そのとき」のような時間にかかわる表現が日本語話者に比べ、多用されていることが分かった。この差異が生じる背景には学習者の母語である中国語の表現構造が日本語と異なっている事情があり、学習者はそれに影響されていることを明らかにした。

はやい段階から中国語を母語とする学習者に母語と日本語の構文上の違いを認識させ、より自然な表現を気付かせる指導が必要となってくる。今後、中国語母語話者以外の学習者にも同様のストーリーテリングテストを行いたい。学習者の母語別に接続表現の使用傾向を分析するならば、その結果は日本語教育だけではなく各言語の第二言語教育に活かせるであろう。

注

- 1 田代ひとみ（1995）「中上級日本語学習者の文章表現の問題点－不自然さ・わかりにくさの原因をさぐる－」を指す。

参考文献

相原茂（1982）「中国語の復句」『講座日本語学11 外国語との対照Ⅱ』明治書院

- 有賀千賀子 (1993) 「対話における接続詞の機能について」『日本語教育』79号
- 市川孝 (1982) 『国語教育のための文章論概説』教育出版
- 畠弘巳 (1985) 「接続詞と文章の展開」『日本語教育』56号
- 国語学会編纂『国語学大辞典』(1980) 東京堂出版
- 小林典子 (1987) 「「そして」による接続詞の接続類型」『筑波大学留学生教育センター 日本語教育論集』第4号
- 近藤邦子 (2004) 「香港の大学における日本語学習者によるストーリーテリングの接続表現の問題点」『早稲田日本語教育研究紀要 Vol.9』
- 佐久間まゆみ (2002) 「接続詞・指示詞と文連鎖」『日本語の文法4 複文と談話』岩波書店
- 仁田義雄他 (1997) 『複文の研究 上、下』くろしお出版
- 田代ひとみ (1995) 「中上級日本語学習者の文章表現の問題点－不自然さ・わかりにくさの原因をさぐる－」『日本語教育』85号
- 鄭亨奎 (1992) 「条件の接続表現の研究－中国語話者の学習者の立場から」『日本語教育』79号
- 寺村秀夫他 (1982) 『講座日本語学11 外国語との対照Ⅱ』明治書院
- 寺村秀夫他 (1982) 『講座日本語学12 外国語との対照Ⅲ』明治書院
- 栃木由香 (1988) 「日本語学習者のストーリーテリングに関する一分析－話の展開と接続形式を中心に」『筑波大学留学生教育センター 日本語教育論集』第5号
- 栃木由香 (1995) 「日本語中級学習者の話しことばのテキストの型－接続表現の使用を中心に」『筑波大学留学生センター 日本語教育論集』第10号
- 水野義道 (1985) 「接続表現の日中対照」『日本語教育』56号